

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和 5年 1月

計画の名称	住んでい〜わといわれる快適な道路の整備(防災・安全)		
計画の期間	平成29年度 ~ 令和3年度	交付対象	岩倉市
計画の目標			

岩倉市の最大の魅力・資源である五条川と市の玄関口である岩倉駅を相互につなぐ名鉄犬山線岩倉駅東地区には、岩倉駅から五条川へ向かう人々が行き交う主要な道路があるにもかかわらず、店舗や家屋が密集しており歩道も整備されていない。このため、歩行者の交通事故の危険や緊急車両の通行性が懸念され防災・安全上の課題が多いことから、都市計画道路桜通線の早急な整備を図ることで、市民が安全で住みよい快適な道路を確保する。
 また、岩倉市内の主要な道路の多くは、高度経済成長期に整備され、今後、舗装の老朽化による修繕が集中することが想定される。この市内の主要な路線を根幹的な社会資本として維持保全していくため、舗装の路面性状調査や道路管理パトロールなどにより対策路線を選定し岩倉市舗装修繕計画を策定した。この修繕計画に基づき計画的な修繕を行うことで、安全で快適な道路交通網を確保する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ① 市の幹線道路となる(都)桜通線の整備により歩行者と車両の分離を図ることで、歩行者の安全対策実施割合を向上する。
- ② 路面性状調査によりMCI≤5の路線および道路管理パトロールによる要対策路線における舗装修繕割合を向上する。

定量的指標の定義及び算定式		定量的指標の現況値及び目標値			備考					
		当初現況値	中間目標値	最終目標値						
①歩行者の安全対策実施割合	= (歩車分離完了延長) / (市内幹線道路歩車分離要対策路線の延長)	66%		67%						
②要対策路線における舗装修繕割合	= (対策完了路線の延長) / (路面性状調査MCI≤5および道路管理パトロールによる要対策路線の延長)	30%		100%						
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,325 百万円	A	1,325 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

事後評価の実施時期

事業に関わる関係課により検討会議を開催し、事後評価を実施した。

令和4年度

公表の方法

岩倉市のホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A 地方道路整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	個別施設計画 策定状況	備考
											H29	H30	H31	R2	R3			
A01-001	道路	一般	岩倉市	直接		市町村道	修繕	(1) 新柳通線ほか (46-A-01)	舗装修繕 L=6.5km	岩倉市						319	策定済	
A01-002	道路	一般	岩倉市	直接		市町村道	修繕	(他) 北32号線ほか (46-A-02)	舗装修繕 L=9.4km	岩倉市						276	策定済	
A01-003	街路	一般	岩倉市	直接		市町村道	改築	(都) 桜通線 (46-A-03)	歩道設置 L=0.15km	岩倉市						730		
小計（道路事業）												1,325						

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H29	H30	H31	R2	R3		
合計												0			

番号																	備考
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
										H29	H30	H31	R2	R3		
合計												0				

番号																	備考
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・岩倉市の幹線道路の舗装整備を行なったことにより、既存の道路機能を維持し安全性が向上した。			
II 定量的指標の達成状況	指標① 歩行者の安全対策実施割合	最終目標値	66 %	目標値と実績値 に差が出た要因	桜通線整備の前段階である用地買収に時間を要しており、歩道整備を実施できなかったため、目標値に至らなかった。
		最終実績値	0 %		
	指標② 要対策路線における舗装修繕割合	最終目標値	100 %	目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値	41 %		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項 (今後の方針等)					
引き続き整備計画に基づき舗装の維持管理や修繕を効率的かつ効果的に実施し、安全・安心な道路ネットワークを確保することを目標とする。					

(様式第8)

(参考図面) 社会資本総合整備

